

編集後記

今回の特集は慶應義塾大学の松本秀男先生に監修していただき「東京2020：整形外科医には何ができるか？」とのタイトルで15編の論文を掲載した。東京オリンピック・パラリンピックまで一年を切った段階でのタイムリーな話題提供となった。

夏季オリンピックの日本開催は2回目であり、1964年以来、実に56年ぶりとなる。オリンピックはいうまでもなく世界最大のスポーツイベントであり、開催国は国威発揚の絶好の機会とも捉えて国民を鼓舞し、未来へ繋がる社会資本整備も行う。1964年大会では東海道新幹線、首都高速道路などの整備を進めたことがよく知られるが、もう一つ大きな社会資本整備が行われた。NHKが世界で3番目にカラー放送の配信を始めたのである。現在60歳以上の人は、自宅や街角でリアルタイムにカラー映像で映し出される選手の活躍に胸を熱くしたと思う。東京2020でもオリンピック・パラリンピック組織委員会の支援のもと各競技団体がメダル獲得に向けて選手の強化に力を入れている。選手の育成という面では、しかし、2度の機会に大きな違いがある。1964年当時は国内での選手強化が一般的であった。しかし、昨今ではスポーツの国際化が進んでおり、国境を超えて有力な人材が切磋琢磨しており、国内強化という手法はすでに通用しなくなっている。この状況を大学における人材育成と対比すると、そこはかといふ不安に襲われる。文部科学省の統計では、世界の潮流に逆行して、本邦の海外留学生数は2004年

をピークに減少が続けている。他のアジア諸国からの学生が留学先に定職を得て活躍の舞台を世界に求めるのに対し、日本人留学生は帰国を前提に渡航しており、国際人材が育ちにくい状況にあるともいわれる。日本の教育界は旧態依然として国内人材の育成を目指しており、大学などの社会資本も少しも進化していないように思う。先日ミシガン大学工学部から倉林活夫教授を招聘した。倉林先生は東京大学卒業と同時にスタンフォード大学に移り、そこでの優れた研究業績を評価され、ミシガン大学の機械工学科、電気工学・コンピュータサイエンス科教授に任用された研究者である。倉林先生には米国における橋渡し研究の現状を講演いただいた。先生によれば米国では国境を超えた人材獲得は国是であり、すでにBrain Circulationでは不十分で、Brain Integrationをキーワードに各大学が構造改革にしのぎを削っているということだ。これ以上改革の潮流に乗り遅れないためには、この機会に日本も高等教育・研究機関などの社会資本を劇的に進化させてはどうだろう。

最後になるが、長らく続いていた「医療史回り舞台」の連載が今号で終了となる。足かけ28年、全327回にわたり数々の興味深い話題を提供くださり、本誌の特色といってもよいほどの存在であった。大変寂しくなるが、今までのご尽力に深く感謝申し上げます。

(平田 仁)

「整形・災害外科」第62巻 第10号 (9月増大号) 2019年9月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 (本体 4,400 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 39,400 円 + 税) 〔年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。